



ROCK FIELD report

第36期中間期のご報告

平成19年5月1日～平成19年10月31日

ROCK FIELD CO., LTD.



株主の皆様へ

SOZAIオンリーワン企業を目指して

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第36期中間期（平成19年5月1日～平成19年10月31日）の営業の概況をご報告申し上げます。

当中間期の業績について

当中間連結会計期間における日本経済は、企業収益の改善による民間設備投資の拡大はあったものの、所得の低迷や住民税増税による負担増から個人消費が伸び悩む等、景気の回復テンポは緩やかとなりました。

そうざい業界におきましては、市場は引き続き拡大傾向にありますが、外食産業や食品メーカー等、他業種からの参入、百貨店・スーパー・コンビニ

等のそうざい部門の強化による競争激化、加えて原材料価格の高騰による収益面への影響等、先行きは不透明な状況にありました。

このような状況のなか、当社グループでは第5次中期経営計画「イノベーション0808」（2005年5月～2008年4月30日）の最終年度として、全部門で変革活動を推進し、経営の効率化を行い、企業収益の向上に取り組んでまいりました。

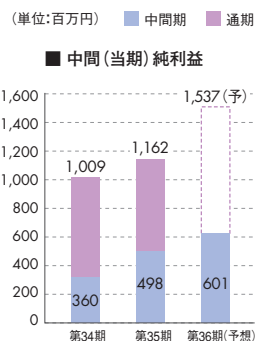
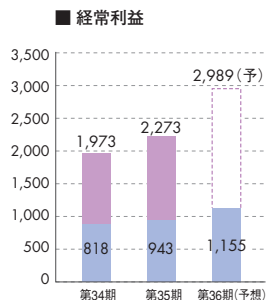
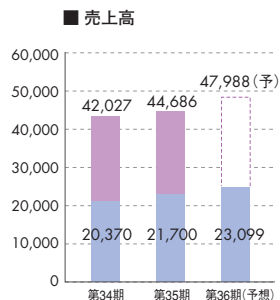
今後の取り組みについて

今後の日本経済は、緩やかな景気回復基調は続くと期待されますが、原油価格の高騰やサブプライムローン問題に端を発した米国経済の減速、原材料価格の高騰、為替相場の変動等、日本経済への影響が懸念されます。また、消費期限、産地、食材の偽装等、食に関する問題が相次ぎ、食品会社はお客様に安心と信頼をお届けするための品質保証体制、コンプライアンス体制の一層の充実が求められています。

当社グループといたしましては、2005年5月にスタートした第5次中期経営計画「イノベーション0808」の最終年度として、その基本戦略である高付加価値政策、選択と集中、投資対効果の追求、暗黙知の形式知化、人材の育成を実施し、お客様満足（CS）の強化と拡大を図るとともに生産性の向上を図り、利益率の向上、さらに企業価値、株主価値の向上に努め、SOZAIオンリーワン企業を目指す所存でございます。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

[2007年度中間期連結業績]



平成20年1月
代表取締役社長 岩田弘三

R₁
F
SOZAI の新しい
ショッパーは、
目で味わうサラダ

2007年11月より、クリスマスシーズンを前に「RF1」ブランドにおいて、新しいショッパーを導入しました。ショッパーは、日本を代表するグラフィックデザイナー・原研哉さんのアートディレクションによるものです。大・中・小のサイズで、クリスマス、年末年始に多くのお客様にご利用いただきました。今回の報告書の表紙写真にも使用いたしております。



グラフィックデザイナー 原研哉氏

日本デザインセンター代表 武蔵野美術大学教授

広告、プロモーションから、パッケージ、空間、展覧会の企画・制作、携帯電話などのプロダクトデザインも手がける。近年は、銀座松屋のリニューアル計画、森ビルのVI計画などを担当。



デザインに込められた想い。

完成されたモノや商品そのものを再現する写真ではなく、『サラダ』が常に進化する、新しいフィールドを拓いていく、その可能性を『目で味わうサラダ』として表現しました(原氏談)。

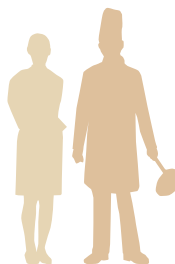


全国各地で積極的な 店舗展開を進めています。

2007年10月25日、東京駅・グランスタに
「be Organic」を出店しました。

今回出店した「be Organic」の3号店は、東京駅地下1階の丸の内と
八重洲を結ぶエキナカゾーンの丸の内側に最も近い位置に立地しています。
同店では、ランチボックス「ビー・エコ・ボックス」をはじめ、
駅利用者、ビジネス・旅行者、丸の内界隈のオフィスワーカーなどに
新しい食の提供と情報の発信をしていきます。

「be Organic」グランスタ店



ビー・エコ・ボックス



九州、北陸地方において、
新たに新店を行いました。

2007年9月、長崎県において、県下初となる「RF1」を浜屋百貨店に出店いたしました。
さらに10月には、新潟県の新潟伊勢丹店に「RF1」、「VEGETERIA」を出店するなど、
これまで店舗数が少なかった地域にも店舗展開を行っています。

「RF1」浜屋百貨店



「RF1」新潟伊勢丹店



「VEGETERIA」に スープメニューを 導入いたしました。

2007年11月より、野菜ジューススタンド
「VEGETERIA」の一部の店舗にてスープメニュー
を導入いたしました。寒い季節に美味しく召し上
がっていただける冬メニューとして、今後、全国
の「VEGETERIA」に拡大してまいります。より
多くのお客様にご利用いただけるよう品揃えの
強化を図ります。

「VEGETERIA」大丸京都店



連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当中間期末 (平成19年10月31日現在)	前中間期末 (平成18年10月31日現在)	前期末 (平成19年4月30日現在)
資 産 の 部			
流動資産	9,394	8,899	9,418
現金及び預金	5,321	5,198	5,163
売掛金	3,346	3,029	3,454
たな卸資産	280	258	298
その他	445	414	503
貸倒引当金	△1	△1	△1
固定資産	15,963	16,061	16,244
有形固定資産	12,894	13,438	13,112
建物	8,010	8,489	8,237
土地	3,003	3,003	3,003
その他	1,881	1,945	1,872
無形固定資産	363	414	413
投資その他の資産	2,706	2,208	2,718
投資有価証券	413	503	452
差入保証金	559	665	616
その他	1,740	1,039	1,649
貸倒引当金	△7	—	—
資産合計	25,358	24,960	25,663

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

科 目	当中間期末 (平成19年10月31日現在)	前中間期末 (平成18年10月31日現在)	前期末 (平成19年4月30日現在)
負 債 の 部			
流動負債	4,673	4,473	4,920
買掛金	1,226	1,143	1,168
1年内返済予定長期借入金	750	819	771
未払金	950	888	883
未払費用	817	780	888
賞与引当金	425	396	492
その他	503	444	716
固定負債	1,067	1,680	1,457
長期借入金	1,067	1,660	1,457
その他	—	20	—
負債合計	5,741	6,153	6,378
純 資 産 の 部			
株主資本	19,528	18,661	19,166
資本金	5,544	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861	5,861
利益剰余金	8,331	7,464	7,968
自己株式	△208	△207	△208
評価・換算差額等	88	145	119
その他有価証券評価差額金	94	148	121
為替換算調整勘定	△6	△3	△1
純資産合計	19,617	18,806	19,285
負債純資産合計	25,358	24,960	25,663

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	(自平成19年5月1日 至平成19年10月31日)	(自平成18年5月1日 至平成18年10月31日)	(自平成18年5月1日 至平成19年4月30日)
売上高	23,099	21,700	44,686
売上原価	10,105	9,515	19,513
売上総利益	12,994	12,184	25,172
販売費及び一般管理費	11,848	11,258	22,907
営業利益	1,145	925	2,265
営業外収益	27	37	47
受取利息	2	1	3
受取配当金	3	4	5
保険配当金	13	14	14
受取紹介手数料	—	10	10
その他	8	6	13
営業外費用	17	19	39
支払利息	13	19	34
その他	3	0	5
経常利益	1,155	943	2,273
特別利益	—	34	35
固定資産売却益	—	11	12
保育所建設補助金	—	23	23
特別損失	79	81	256
固定資産除売却損	72	32	111
店舗等閉鎖に伴う損失	—	49	132
減損損失	—	—	10
投資有価証券評価損	—	—	1
会員権評価損	7	—	—
税金等調整前中間(当期)純利益	1,076	896	2,052
法人税、住民税及び事業税	415	338	896
法人税等調整額	59	59	△6
中間(当期)純利益	601	498	1,162

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	(自平成19年5月1日 至平成19年10月31日)	(自平成18年5月1日 至平成18年10月31日)	(自平成18年5月1日 至平成19年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,333	1,166	2,698
投資活動によるキャッシュ・フロー	△521	△505	△1,661
財務活動によるキャッシュ・フロー	△650	△1,070	△1,482
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	1	2
現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	158	△408	△444
現金及び現金同等物の期首残高	5,163	5,607	5,607
現金及び現金同等物の中間期末 (期末)残高	5,321	5,198	5,163

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自平成19年5月1日 至平成19年10月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成19年4月30日 残高	5,544	5,861	7,968	△208	19,166	121	△1	119	19,285
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△239		△239				△239
中間純利益			601		601				601
自己株式の取得				△0	△0				△0
自己株式の処分				0	0				0
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△26	△4	△30	△30
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	362	△0	362	△26	△4	△30	331
平成19年10月31日 残高	5,544	5,861	8,331	△208	19,528	94	△6	88	19,617

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体財務諸表

中間貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当中間期末 (平成19年10月31日現在)	前中間期末 (平成18年10月31日現在)	前期末 (平成19年4月30日現在)
資産の部			
流動資産	9,197	8,745	9,238
現金及び預金	5,150	5,069	5,007
売掛金	3,340	3,024	3,444
たな卸資産	262	241	285
その他	444	411	502
貸倒引当金	△1	△1	△1
固定資産	16,316	16,358	16,571
有形固定資産	12,825	13,338	13,027
建物	7,972	8,431	8,188
土地	3,003	3,003	3,003
その他	1,850	1,903	1,836
無形固定資産	320	355	362
投資その他の資産	3,169	2,664	3,181
投資有価証券	413	968	452
差入保証金	559	664	615
その他	2,204	1,032	2,113
貸倒引当金	△7	—	—
資産合計	25,514	25,104	25,810

* 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

科 目	当中間期末 (平成19年10月31日現在)	前中間期末 (平成18年10月31日現在)	前期末 (平成19年4月30日現在)
負債の部			
流動負債	4,631	4,459	4,875
買掛金	1,226	1,146	1,164
1年内返済予定長期借入金	750	819	771
未払金	927	886	862
未払法人税等	452	395	597
賞与引当金	421	395	488
その他	853	816	990
固定負債	1,067	1,660	1,457
長期借入金	1,067	1,660	1,457
負債合計	5,699	6,120	6,333
純資産の部			
株主資本	19,720	18,835	19,356
資本金	5,544	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861	5,861
資本準備金	5,861	5,861	5,861
利益剰余金	8,523	7,637	8,158
利益準備金	179	179	179
その他利益剰余金			
配当準備積立金	100	100	100
別途積立金	6,396	6,396	6,396
固定資産圧縮積立金	13	—	13
繰越利益剰余金	1,834	962	1,470
自己株式	△208	△207	△208
評価・換算差額等	94	148	121
その他有価証券評価差額金	94	148	121
純資産合計	19,814	18,984	19,477
負債純資産合計	25,514	25,104	25,810

* 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

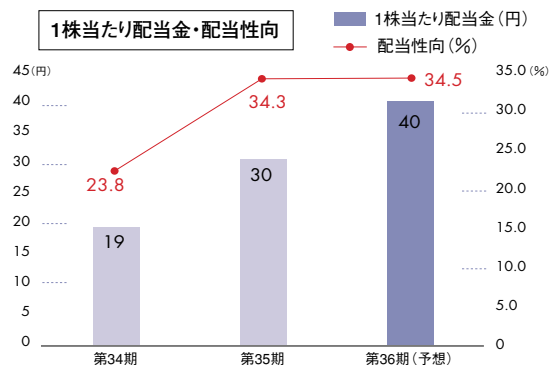
中間損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (自平成19年5月1日 至平成19年10月31日)	前中間期 (自平成18年5月1日 至平成18年10月31日)	前期 (自平成18年5月1日 至平成19年4月30日)
売上高	22,956	21,575	44,433
売上原価	10,021	9,457	19,375
売上総利益	12,935	12,118	25,057
販売費及び一般管理費	11,799	11,194	22,789
営業利益	1,136	924	2,268
営業外収益	29	38	48
営業外費用	14	19	35
経常利益	1,151	943	2,281
特別利益	—	34	35
特別損失	79	81	256
税引前中間(当期)純利益	1,072	896	2,060
法人税、住民税及び事業税	409	333	892
法人税等調整額	59	55	△19
中間(当期)純利益	603	507	1,187

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

1株当たり配当金・配当性向



利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要施策として位置付けており、利益の配分につきましては、内部留保に留意しつつ安定的な配当を継続的に行うことを基本とし、業績に応じて総合的に決定しております。また、営業利益率増加に伴う利益還元の拡大施策として配当性向を30%以上に引き上げることを目処に配当を行ってまいります。この方針のもと、当中間期の配当金につきましては、期初の予定通り1株当たり18円といたします。なお、期末の配当金につきましては、1株につき22円を予定しております。今後とも、業績の向上と経営基盤の強化を図り、企業価値の向上に取り組んでまいります。

中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自平成19年5月1日 至平成19年10月31日)

(単位:百万円)

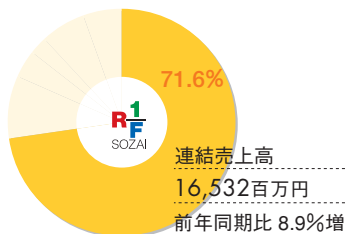
	株主資本										評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計	其他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計		
		資本 準備金	資本 剰余金 合計		その他利益剰余金									
					配当準備 積立金	別途 積立金	固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金						
平成19年4月30日 残高	5,544	5,861	5,861	179	100	6,396	13	1,470	8,158	△208	19,356	121	121	19,477
中間会計期間中の変動額														
固定資産圧縮積立金の取崩							△0	0	—		—			—
剰余金の配当									△239	△239	△239			△239
中間純利益								603	603		603			603
自己株式の取得										△0	△0			△0
自己株式の処分										0	0			0
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)												△26	△26	△26
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	△0	364	364	△0	363	△26	△26	337
平成19年10月31日 残高	5,544	5,861	5,861	179	100	6,396	13	1,834	8,523	△208	19,720	94	94	19,814

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

「アール・エフ・ワン」 172店舗



春夏の天候不順や異常高温のため、生鮮野菜の価格が高騰いたしました。国内契約農家より安定供給を受ける当社は、サラダを中心に価格を安定化させることができ、順調に売上を増加いたしました。また、都心・郊外、地方、駅ビルやエキナカ等、店舗タイプ別、地域別、曜日別、時間帯別に応じた品揃えの強化を行うとともに、自社他ブランドとのブランドミックス、商品ミックスを推進しました。また、新規出店や店舗リニューアルも積極的に行ってまいりました。その結果、売上高は16,532百万円（前年同期比8.9%増）となりました。

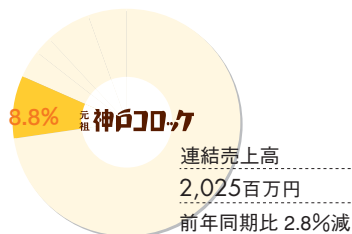


「神戸コロッケ」 57店舗

元祖 神戸コロッケ



神戸コロッケのおいしさをより多くのお客様に知っていただくため、定番コロッケの素材・製法・技術の向上に取り組みました。また、日本各地の選りすぐりの素材や日本ならではの料理を用いて、日本の魅力をコロッケにした「ニッポンコロッケ」を開発、導入いたしました。夏場の異常高温の影響もあり、売上高は2,025百万円（前年同期比2.8%減）となりました。



「いとはん」「三日坊主」 14店舗



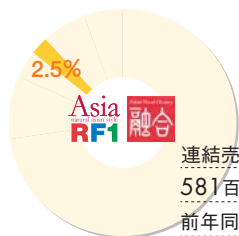
日本の四季や歳時記を大切に、食を楽しむことを提案する和そうざいのお店として、国内産の旬の素材を使用した「京都産 加茂なすの田楽」や「焼きのこのサラダ」「ミニきゅうりと塩昆布の和サラダ」など付加価値の高い商品の導入を行うとともに、地域別、曜日別、時間帯別の品揃えの強化に取り組みました。その結果、売上高は911百万円（前年同期比32.6%増）となりました。



「RF1 Asia」「融合」 8店舗



「食することで健康になる」というアジアの食文化をベースに、産地や生産者が明確な旬の野菜など素材にこだわり、「30品目ナムルの美食同源サラダ」「那須高原豚と蓮根・ごぼうの甘辛炒め」などの美食同源メニューの展開を行いました。また、地域別、曜日別、時間帯別の品揃えの強化に取り組みました。その結果、売上高は581百万円（前年同期比13.3%増）となりました。

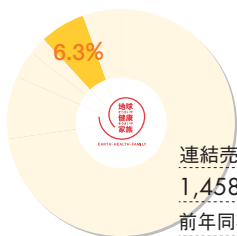


連結売上高
581百万円
前年同期比 13.3%増

「そうざいや地球健康家族」 23店舗



「桜島どりの黒酢あんかけ」「北海道端野町産男爵芋の肉じゃが」等、定番商品の品質向上に取り組みました。また、素材を国産素材にこだわり、最も美味しい時期、旬に販売を限定した高付加価値商品「ここで発見×いまが美味」を展開いたしました。しかしながら、前期に不採算店舗を含む15店舗を退店したことにより、売上高は1,458百万円（前年同期比19.0%減）となりました。

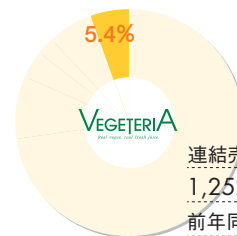


連結売上高
1,458百万円
前年同期比 19.0%減

「ベジテリア」 38店舗



野菜が苦手な方にも美味しく飲んでもいただける「ブルーベリー&紫野菜」や「マンゴー&黄野菜」の新定番商品を導入するとともに、「茨城のメロン」「山梨の桃」等、旬と産地を厳選したフルーツジュースが好調に推移し、売上高は1,252百万円（前年同期比3.9%増）となりました。



連結売上高
1,252百万円
前年同期比 3.9%増

● 会社情報 (平成19年10月31日現在)

■ 会社概要

社名 株式会社ロック・フィールド
 設立 1972年6月8日
 事業内容 そうざいの製造・販売
 代表者 代表取締役社長 岩田弘三
 資本金 55億44百万円
 従業員数 1,235名(連結ベース、契約社員含む)
 子法人等 Rockfield (California) Inc. (本社:米国カリフォルニア州)
 サンフランシスコにて店舗「DELICA rf-1」を運営
 株式会社コウベデリカテッセン
 (本社:神戸市東灘区魚崎浜町27番地39)

■ 役員

代表取締役社長 岩田 弘三
 常務取締役 湯浅 勉
 取締役 矢嶋 勝
 取締役 尾崎 一郎
 取締役 垣谷 優一郎
 社外取締役 堀場 厚
 社外取締役 寺田 千代乃
 常勤監査役 渡辺 哲夫
 監査役 三宅 良治
 社外監査役 阿部 良男
 社外監査役 林 義久
 社外監査役 奥田 実

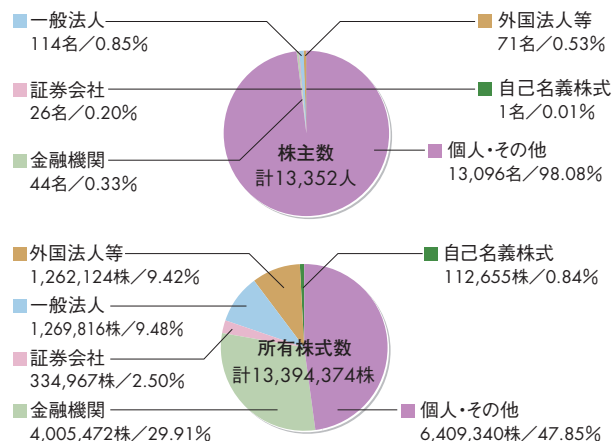
● 株式の状況 (平成19年10月31日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
 発行済株式数の総数 13,394,374株
 単元株式数 100株
 株主数 13,352名

■ 大株主

株主名	持株数(株)
岩田弘三	1,529,468
明治安田生命保険相互会社	656,300
株式会社四国銀行	621,460
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	560,600
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	347,700
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	318,500
三菱UFJリース株式会社	241,032
ロック・フィールド社員持株会	232,697
ロック・フィールド取引先持株会	232,640
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	218,300

■ 所有者別分布状況



●株主メモ

事業年度	毎年5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会	7月
剰余金の配当基準日	期末 4月30日 中間 10月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所(お問い合わせ先)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777(通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 なお、株式関係のお手続き用紙のご請求は、以下の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部) 0120-684-479(大阪証券代行部) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
公告方法	電子公告(http://www.rockfield.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

■ 単元未満株式の買増請求制度および買取請求制度のご案内

【買増請求制度について】

株式市場で売却できない100株未満の株式(単元未満株式)をご所有の場合、合わせて100株(1単元)にするのに必要な株式を当社から市場価格で買取ることができる制度です。

【買取請求制度について】

ご所有の単元未満株式を当社に対して売却することができる制度です。当社は、市場価格で買取りいたします。

いずれの手続きも、当社の株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にて承っております。手続きの詳細、書類のご請求などは同行大阪証券代行部(電話 0120-094-777)までお問い合わせください。

なお、証券保管振替制度をご利用されている場合(特定口座をご利用されている場合など)は、お取引の証券会社にお申し出ください。

■ 配当金振込制度のご案内

ご所有の株式に対する配当金(中間配当金を含む)の受領方法には、ゆうちょ銀行配当金領収証により、ゆうちょ銀行窓口で受け取る方法のほかに、ご指定の銀行預金口座への振込にて受け取る方法がございますが、より安全・確実な、銀行預金口座への振込のご指定をおすすめいたします。手続きは、当社の株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にて承っております。同封の「配当金振込指定書」にご記入・ご押印のうえ、ご郵送ください。手続きの詳細、書類のご請求などは同行大阪証券代行部(電話 0120-094-777)までお問い合わせください。

株式会社 ロック・フィールド <http://www.rockfield.co.jp/>

神戸ヘッドオフィス	〒658-0024	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	TEL.078-435-2800(代表) FAX.078-435-2805
東京オフィス	〒101-0044	東京都千代田区鍛冶町1-9-16丸石第二ビル	TEL.03-3526-6355(代表) FAX.03-3526-6356
神戸ファクトリー	〒658-0024	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	TEL.078-435-2200(代表) FAX.078-435-2210
静岡ファクトリー	〒438-0112	静岡県磐田市下野部2280	TEL.0539-62-5700(代表) FAX.0539-62-5041
玉川SPSファクトリー	〒213-0032	神奈川県川崎市高津区久地3-12-57	TEL.044-811-8171(代表) FAX.044-811-8199